

平成 2 2 年度病害虫発生予報第 1 1 号

平成 2 3 年 1 月 3 1 日
愛 知 県

タマネギ白色疫病は、やや多い発生状況です。気温が高く降雨が続く場合は、短期間でまん延する恐れがあるので注意しましょう。また、べと病の発生を確認したほ場があります。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

キャベツ菌核病は、罹病作物上に形成された菌核が次作の伝染源となるので、被害残さを集めて畑の外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生は平年並ですが、今後、気温の上昇にともない、本病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生が増加し、本病の発生が増えることが心配されます。タバココナジラミの発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。また、トマト葉かび病の発病葉は早めに取り除いて、適切に処分するようにしましょう。薬剤は葉裏までかかるよう、丁寧に散布しましょう。

果菜類の灰色かび病は、トマトで少なく、ナス、キュウリ、イチゴで平年並の発生となっていますが、施設内が多湿になると発生が拡大するので、積極的に換気や送風を行い過湿にならないように管理しましょう。本病の発病果や発病葉は伝染源になるので、速やかに取り除いて適切に処分しましょう。防除にあたっては、同一系統薬剤の連用を避けるようにしましょう。

ナスのミナミキイロアザミウマは発生が多い状況です。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

キュウリのミナミキイロアザミウマの発生は少ない状況ですが、今後、気温の上昇とともに増加しやすくなるので、ほ場での発生状況に注意しましょう。

イチゴのハダニ類は発生が多い状況です。今後、気温が高くなると急激に増加するので発生ほ場では薬剤で防除しましょう。また、ハダニ類の密度が高いほ場で天敵を用いる場合は、天敵への影響が少ない農薬を散布し密度を下げてから放飼しましょう。

野菜

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|--------------|-----------------|---------------|------------|-------------------------------|--------|
| タマネギ | 白色疫病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い | + |
| | べと病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 | ± |
| トマト (施設) | 葉かび病 | 少ない | 全域 | 1月下旬の発生量は少ない 2月の日照時間は平年並 | - ± |
| | 灰色かび病 | やや少ない | 全域 | 1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間は平年並 | - ± |
| ナス (施設) | すすかび病 | やや少ない | 全域 | 1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間は平年並 | - ± |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並 | ± ± |
| | ミナミキイロ アザミウマ | 多い | 全域 | 1月下旬の発生量は多い 2月の気温は高い | + + |
| キュウリ (施設) | べと病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は平年並 | + ± |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並 | ± ± |
| | ミナミキイロ アザミウマ | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は少ない 2月の気温は高い | - + |
| イチゴ (施設) | うどんこ病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並 | ± ± |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並 | ± ± |
| | ハダニ類 | 多い | 全域 | 1月下旬の発生量は多い 2月の気温は高い | + + |

・防除対策

〔タマネギ・白色疫病〕

発生を確認したほ場では、リドミルMZ水和剤やホライズンドライフロアブルなど治療効果のある薬剤で防除しましょう。また、発病のおそれが高いと見込まれる場合は、ジマンダイセン水和剤などにより予防散布をしましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

ほ場での発生状況に注意し、コテツフロアブル、ダントツ水溶剤などで早めに防除しましょう。ミツバチ、マルハナバチを導入する施設では、影響日数をよく確認して薬剤を選びましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど必要以上に湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意しましょう。発生を確認したほ場では、ランマンフロアブル、ホライズンドライフロアブルなどで防除しましょう。また、発病のおそれが高いと見込まれる場合は、ジマンダイセン水和剤などにより予防散布をしましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

気温が上昇すると発生量の増加が著しくなり防除が困難になるので、早めにカネマイトフロアブルやスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台1月28日発表）

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。岐阜県山間部では平年と同様に曇りや雪の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率が50%です。降水量は、平年並または少ない確率とともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率とともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率が50%です。2週目は、高い確率が70%です。3～4週目は、平年並または高い確率とともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

| | | | | | | |
|-------------|------|-------|-----|-------|-----|-------|
| 〔 気 温 〕 | 低 い | ： 20% | 平年並 | ： 30% | 高 い | ： 50% |
| 〔 降 水 量 〕 | 少 ない | ： 40% | 平年並 | ： 40% | 多 い | ： 20% |
| 〔 日 照 時 間 〕 | 少 ない | ： 20% | 平年並 | ： 40% | 多 い | ： 40% |

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月の天候は、冬型の気圧配置となる日が多く、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。岐阜県山間部は、平年と同様に曇りや雪の日が多い見込みです。岐阜県山間部の降雪日数は平年並でしょう。1週目の終わりから2週目にかけて気温が高くなる見込みです。

特に注意を要する事項

期間の前半は、気温の変動が大きくなる見込みです。

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬の紛失・盗難に注意し、気づいた場合は直ちに警察に連絡しましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/link.html> をご覧ください。

E-mail 配信のご案内

予報（病虫害の発生予察情報）、最新情報（病虫害の防除情報等）、注意報、その他情報（いもち情報等随時）等をメール（Word形式）でお届けします。（月2回程度）

ご希望の方は

件名に「E-mail 配信の申し込み」

本文に 氏名


住所（市町村までで結構です）、

職業（例 農薬メーカー、農業）

以上を記入し、病虫害防除グループまでメールでお申し込みください。

病虫害防除グループメールアドレス byogaichu@pref.aichi.lg.jp

送信するメールの例



あいち病虫害情報

E-mail 配信
2010.9.30

発生予察情報

- ・ [予報第7号\(10月\)](#)
PDFファイルを使用しています。
- ・ [吸蜜性カメムシ情報第1号\(ダイズ\)](#)
PDFファイルを使用しています。
- ・ [調査データ](#)
トラップ（フェロモン、粘着）及び予察灯への誘殺数のグラフです。
PDFファイルを使用しています。

[あいち病虫害情報ホームページのトップはこちら。](#)

（リンク先が表示されない場合は Ctrl キーをおしながらクリックしてリンク先を表示する）

（連絡先）愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除グループ
電話 0561-62-0085